

俺たちの時代の「空手道」に夢を馳せる

山城美智氏の特集はいかがであったろうか。沖縄に連続と続く泊手の「手（ティ）」が、未来の「空手道」にインパクトを与える予感があったと思う。

編集部では、ぜひ同年代で将来の競技空手界を牽引する人との交流を持ってもらいたいと考えたのである。編集部の中で、最初に名が挙がったのが、土佐樹誉彦氏であった。お二人が出会うことで将来の「空手道」に大きなインパクトが起こるとのインスピレーションがあった。この直感は何だろう？

調べるうちに、二人の環境に共通点が多く出てきた。一番は同じ学年、生まれ月もほぼ同じだったこと。さらに父が空手道場の師範で、5歳から空手の手解きを受けておられる。お二人とも将来の「空手」の姿に夢を持っておられる。

きっと土佐氏は受け入れてくれる、二人は出会う運命にある。そう信じてのことだが、唐突な土佐氏への申し入れ。

山城氏のプロフィールを話して、土佐氏より快諾をいただき、対談が実現した。土佐氏の懐の深さに感動した。

当日は、初対面にもかかわらず、旧知の親友のように語っていただいた。編集部の無茶なお願いで山城氏の突きを土佐氏に受けていただき、土佐氏には玄制流の技を見せていただいた。一気に打ち解け合う二人、空手家同士はやはり手合わせをするのが一番なのだ。

土佐：海外に指導に行くと実力勝負ですね。彼らは、こちらの実力をうかがって確かめてから、従うかどうかを決る傾向が顕著ですからね。だからこちら最初のインパクトが重要になります。

山城：私も初めて行ったときは、高校生に見られ、舐められてしまいました。それから髭を伸ばし始めました(笑)。それで、私は、海外に行くときセミナーに来た人全員の突きを受けます。本気で入ってきますね。そして、今度はこちらの突きを体験させます。

土佐：実力さえ見れば、本当に素直に指導を受けてくれますね。それにしても山城先生の突きは重いですね。でも、少し控え目なのは分かりましたよ。本気で打たれたらどんなことになるんでしょうね。

山城：ありがとうございます。僕が習っている先生は、僕より10センチくらい背が低く、既に70歳を過ぎています。でも、突きの偉力は僕よりはるかに強いです。70歳、80歳でも強い突きが打てるというのは、空手をする人の憧れだと思います。そう人が沖縄にはまだ何人かいるんです。今のままだと、そういう人がどんどん消えていってしまう。こういう人が居た、と単に伝説の人としてはいけないと思っています。

土佐：そういう達人は確実にいますよね。そういう達人技に強い興味を抱いています。私もそういう方々に手解きしていただきたいと考えています。そのようなときに山城先生とこんな風に出会えて嬉しいです。

山城：ありがとうございます。空手を青春の一時期の楽しみで終わらせるのではなく、死ぬまで続けられて楽しめるものであって欲しいです。それが本来の空手だと思います。本当は死ぬまで強くなり続けたいというのが皆さんの気持ちだと思います。「型」の中にそうしたことのできる稽古



KIYOHICO TOSA

土佐樹誉彦

山城先生の突きは重たいですね。本気で打たれたらどんなことになるのでしょうかね。

法のシステムがちゃんと残っているんです。それを多くの人に知ってもらいたい。そういう状況を作る努力をしたいというのが私の希望なんです。ただ、若造の私がしゃばっても現状は変わらない。それで、海外に出たり色々なところで種をまくというか……。

土佐：そうですね、同感です。僕自身もそれは強く感じています。自分の所だけで固まってしまいやすいです。ただでさえ小さな世界ですから、小さく固まってしまうと色々な要素を互いに吸収しながら発展し、発信すべきものは発信していくべきだと思います。“出る杭は打たれる”



YOSHITOMO YAMASHIRO

山城美智

「死ぬまで強くなり続けたい」それを叶えるシステムが型にはありません。

という言葉がありますが、それならいっそ出過ぎてしまえと。叩かれても頭だけは出ていると思いますので(笑)。一緒に色々なことに挑戦して行きましょう。

山城：ありがとうございます。今回こうして東京に来て、土佐先生に出会えたことが、とても嬉しいです。真剣に将来の空手を語る仲間がいるんだということに感動です。誰でも自分がやりたいレベルの空手を生涯にわたって楽しんで、そして生涯にわたって少しずつ強くなっていく。健康の面でも、空手の技術も、精神的な面も。その人なりに上を目指す空手というのがよいと思うのです。

土佐：どうしても競技ルールに偏りがちな指導になってしまうのですが、私も町道場の役目をそのように考えています。競技で勝ちたい人にはそのように指導をします。しかし、健康や精神面の強さを求めている人にはそういう空手を指導することが本来の姿だと思っています。親御さんに言っているんですが競技会で一番になる人はたった一人。その人以外は全員負けている人なんだから、負けても否定しないで欲しいんです。それぞれがそれぞれの空手をやればいいんです。どのような結果であれ“勝つ”ではなく“己に克つ”ことが出来ていれば自ずから結果はついてきます。しかし、その結果は、人生においてはあくまで経過です。そのような意味で、心の部分が重要だと思っています。精神面も含め強くしてあげたいですね。

山城：今日は本当にありがとうございます。一人で行くことには限界がありますから、土佐先生のような方に背中を押していただけると心強いです。今後もこうした交流をさせていただけると嬉しいのですが。

土佐：こちらこそありがとうございます。素晴らしい縁を結んでくださった『JKFan』さんに感謝です。今度は、ぜひ一緒に稽古をしましょう。その後で一献傾け、大いに語り合しましょう。

山城：いやー嬉しいです。年に4、5回は東京の弟子の指導に来ておりますから、必ずご連絡させていただきます。

■プロフィール

土佐樹誉彦 (Kiyohiko Tosa)
1977年3月9日生まれ。184cm、95kg。5才から空手を始め、元JKF ナショナルチームメンバー。
数々の国内大会、国際大会(アジア大会、世界大会、ワールドゲームス等)を戦い、現在は、
国際玄制流空手道連盟 武徳会 総本部専任指導員。